

Movie Review 22 #隔たる世界の二人

『#隔たる世界の二人』(2020 年、トレヴィン・フリーとマーティン・デスモンド・ロー監督)をNetflixで視聴した。2020 年にアカデミー短編映画賞を受賞。警察官との遭遇で死を迎える黒人男性の繰り返す悪夢が描かれる。

場所はニューヨーク。黒人 C は愛犬に餌を与えるために恋人のアパートから自宅へ帰ろうとするが、通りで白人の巡査と遭遇し、首を絞められて殺される。最初の出会いで警官は C が吸っている煙草の匂いがおかしいと主張して所持品検査を強行し、彼は抵抗したために窒息死に追いやられるが、次の瞬間には恋人のベッドで目が覚める時間まで戻る。そのループを繰り返す C はアパートから出ないことにするが、すると今度は部屋番号を誤解した機動隊によって射殺されてしまう。99 回殺された後、C は巡査にこの状況を説明し、周辺の人々の挙動を予測することでループを信じさせることに成功する。C は巡査に自宅まで送るように頼んで無事に到着し、パトカーから降りて握手を交わす。会話をしてお互いが理解し合えれば、悪循環は払拭されるのだ、と思ったが・・・

しかし、ループは繰り返される・・・

映画の最後のバックに警察官と遭遇して亡くなった黒人の名前が画面上に挙列される(ほんの一部に過ぎないと)。

ジョージ・フロイドは 2020 年 5 月 25 日にミネアポリス近郊で、警察官の不適切な拘束方法によって殺害された。この事件以降、全米で BLM 運動と暴動が多数発生した。偽札の使用容疑により手錠をかけられたフロイドが、「呼吸ができない、助けてくれ(I can't breathe)」と懇願していたにもかかわらず、8 分 46 秒間フロイドの頸部を膝で強く押さえつけ、フロイドを死亡させた。その時間の中で、フロイドの反応が見られなくなった後の 2 分 53 秒間においても警察官はフロイドの頸部を膝で押さえつけていた。フロイドは手錠を掛けられ顔は路面に押さえ込まれていたが、なおも警察官は膝でフロイドの頸部を押し付けていた。その他 3 名の警察官の関与が確認されている。映画にはこの場面が反映されている。

遺族の要請を受けて検視が行われ、検視の結果、独立検視官らは窒息死と断定。検視に当たった医師は「形跡から死因は機械的窒息で、殺人による死亡と判断される」と表明。フロイドの死亡後、暴動、放火が起きている。こうした暴動に対し、フロイドの弟は「皆さんはいったい何をやってるのですか?」と呼びかけ、「地元をめちゃくちゃにしないで」「そんなことをしても兄は戻ってこない」と強く非難した。

2014年にこれと同様なエリック・ガーナー窒息事件が既に行きている。

32分の短編であるが、人種の壁の厚さを痛感する。米国の闇は深い。